

施 工 要 領 書

アーチブロック

令和 7 年版

日新産業株式会社

1. 概要

本書は、アーチブロック工の施工要領についてまとめたものである。

本製品はプラスチックネットを連続したアーチ状に加工した鹿の食害対策資材である。

<製品の寸法形状>

①出荷時：巻径 40cm 長さ 1.0m 重量約 4.0kg

②出来形：幅 0.95m×長さ 5.5m / 1巻 （法面設置後の出来形寸法）



写真-1. 出荷時の形状

<展開時の形状>

①アーチブロックは、外側端部が法面の上部方向にくるよう巻かれています。

②法面に展開すると自然にアーチ形状が形成されるようになっています。

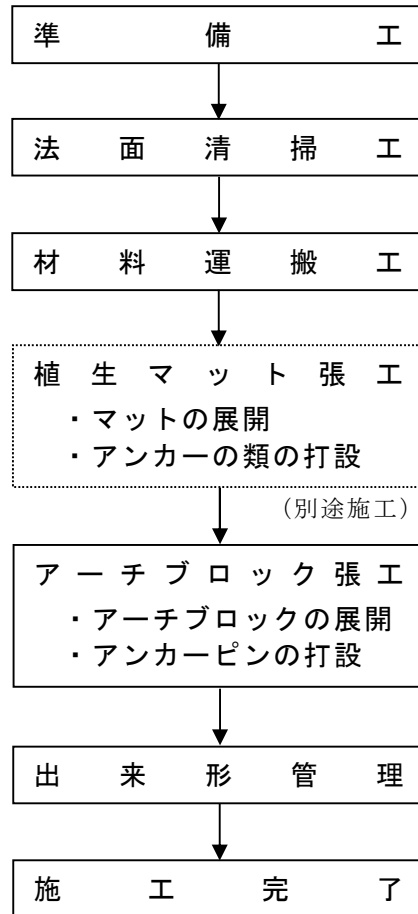


写真-2. 展開時の形状

<その他資材>

- ・アンカーピンは異形鉄筋とし、地山状況に応じて適宜長さの変更を行って下さい（標準 D10×250mm）。
- ・結束線は垂鉛メッキU字結束線 #21×350mm を使用して下さい。

2. 施工フロー



3. 施工手順

手順①：アーチブロックは、アーチ凸側がおもて面になるよう展開します。

(内巻のため展開方法に注意 図-1 参照)



写真-3. アーチブロック展開方法

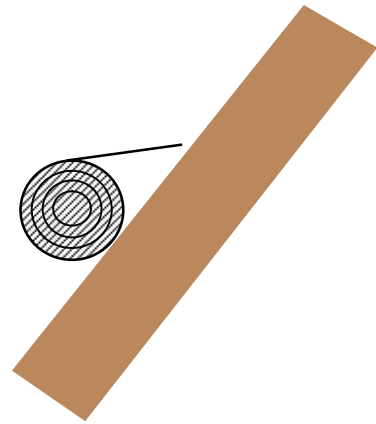


図-1. アーチブロック展開方法

手順②：アーチブロック上端部を施工範囲の上部付近に合わせ、アンカーピンで固定します。

アンカーピン頭部は地山から 5cm 程度浮かせた状態となるよう打設します。

アンカーピン打設後、ネットとアンカーピンを結束します。

法肩部はアンカーピンを 3 本打設し、すべて結束を行います。



写真-4. 上端部の打設方法



写真-5. 上端部の打設状況



写真-6. ネットとアンカーピンの結束状況①



写真-7. ネットとアンカーピンの結束状況②

手順③：上端部に続いて、縦方向（法長方向）に 55cm の間隔でアーチ凹部をアンカーピンで固定します。横方向における打設位置は下記を目安とします。

打設本数は打設図（P5）を参照願います。

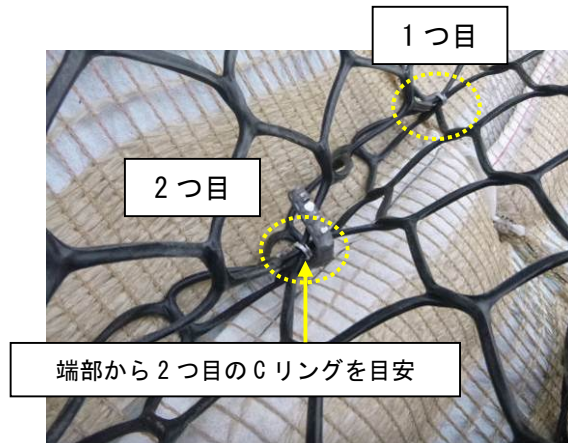


写真-8. 2列目アンカー打設状況

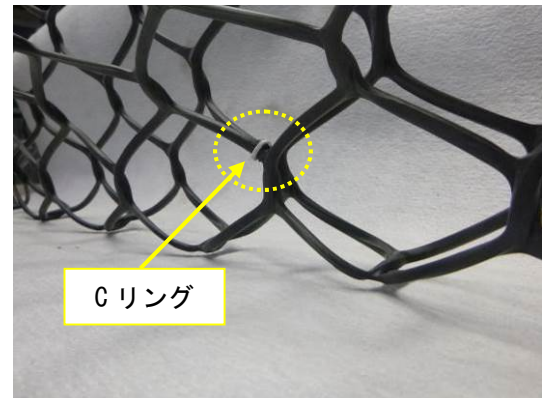


写真-9. Cリングの状況

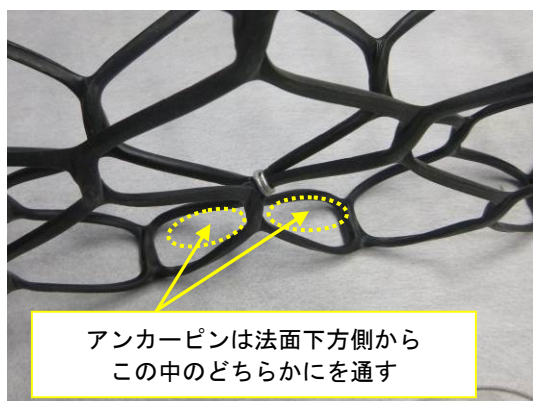


写真-10. アンカー打設位置

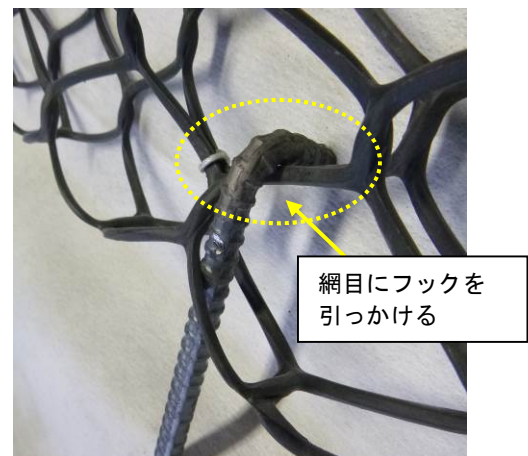


写真-11. 打止め高さ



写真-12. 法面下方から見た状況



写真-13. 法面上方から見た状況

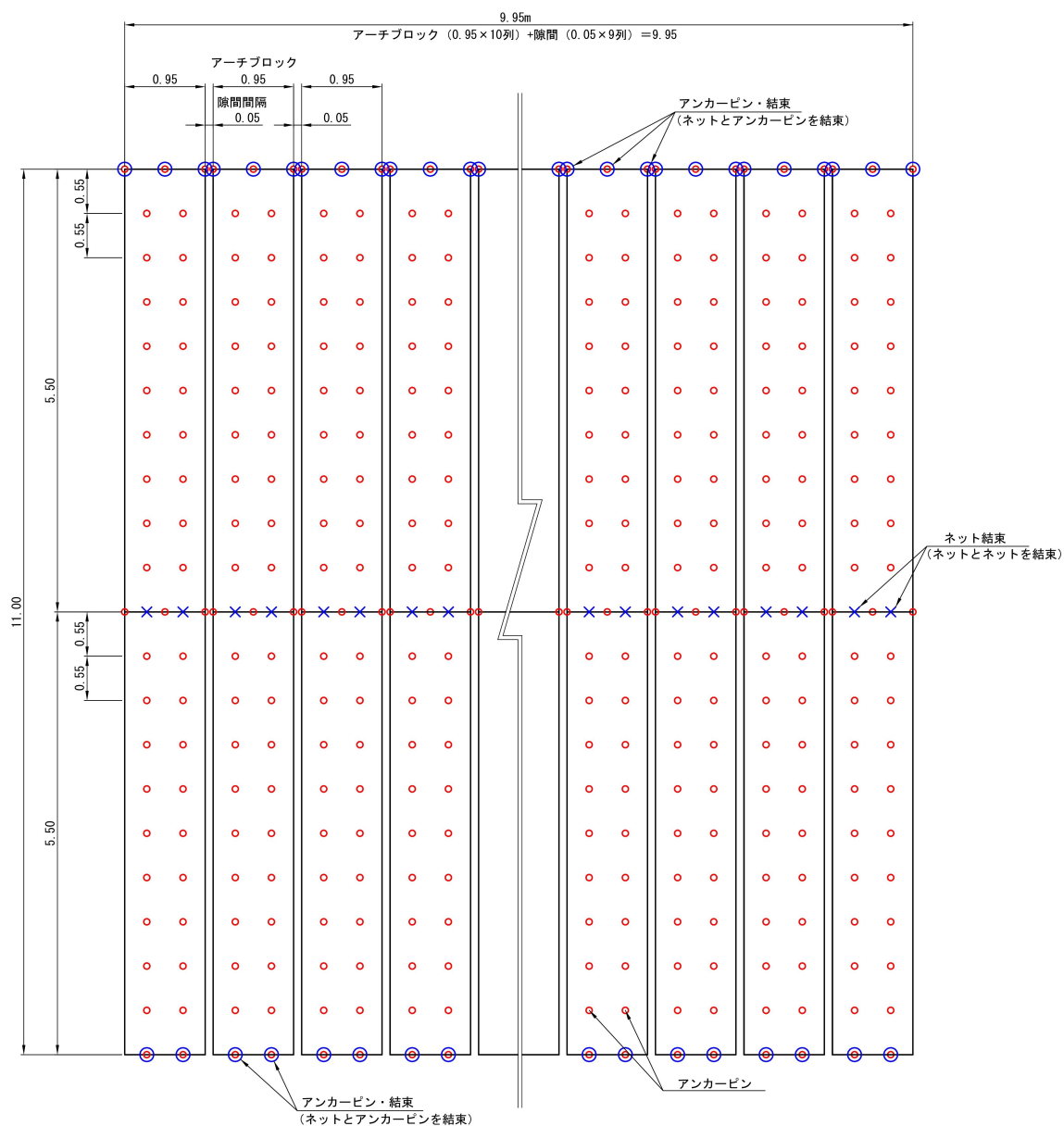


図-2. アンカー打設及び結束位置図

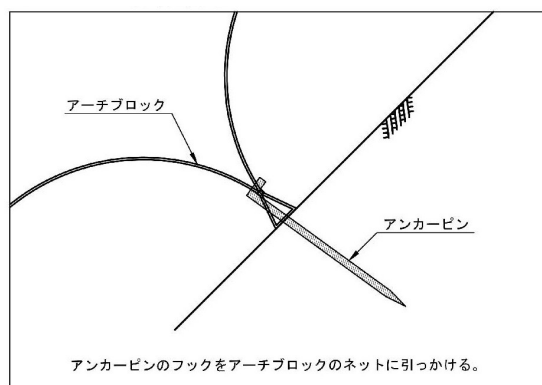


図-3. アンカー打設イメージ

手順④：製品接続部の施工方法

上下2枚のアーチブロックを重ね合わせ、法面下方からアンカーピンを打設します。
これまでと同様に網目にフックを引っ掛けアーチブロックを固定します。
ネットとネットの接続箇所はアンカーピンを3本打設します。



写真-14. 接続部のアンカー打設方法

アンカーピン打設後、ネットとネットを結束します。
ネットとネットの結束箇所は2箇所とします。

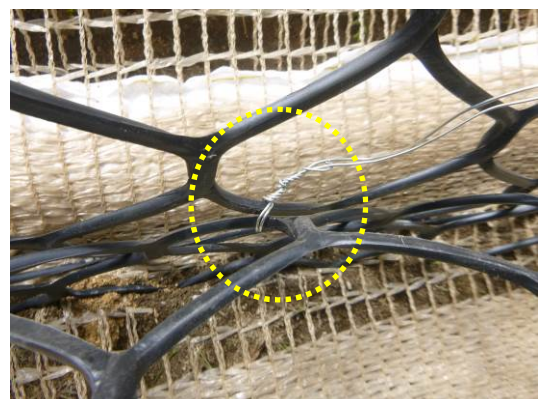
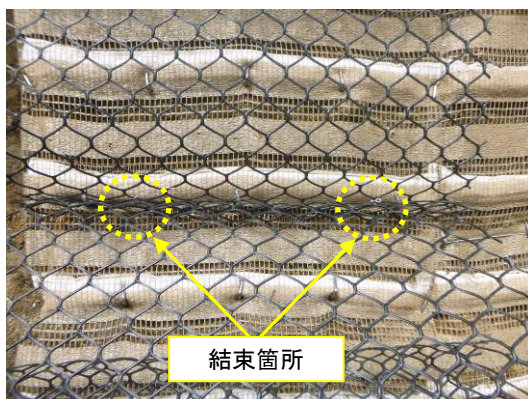


写真-15. 接続部におけるネットとネットの結束状況

手順⑤：法尻部の施工方法

下記写真を参考にアンカーピンの打設を行います。

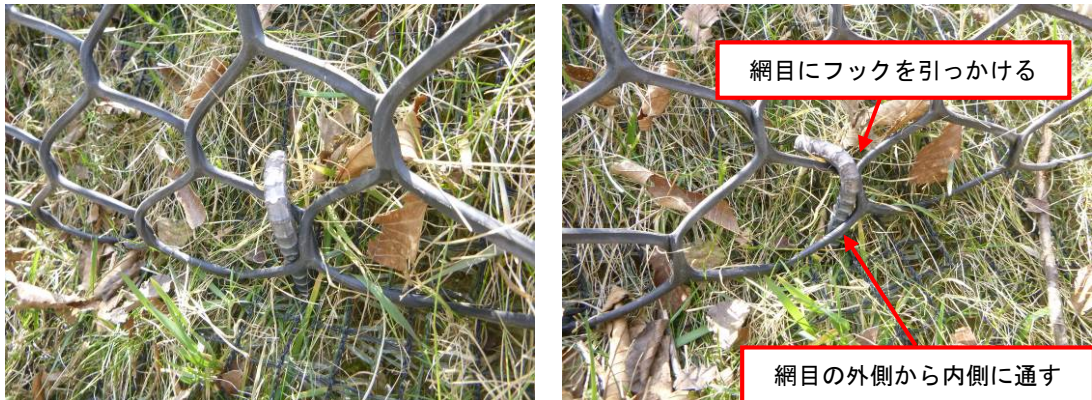


写真-16. 法尻部のアンカー打設方法

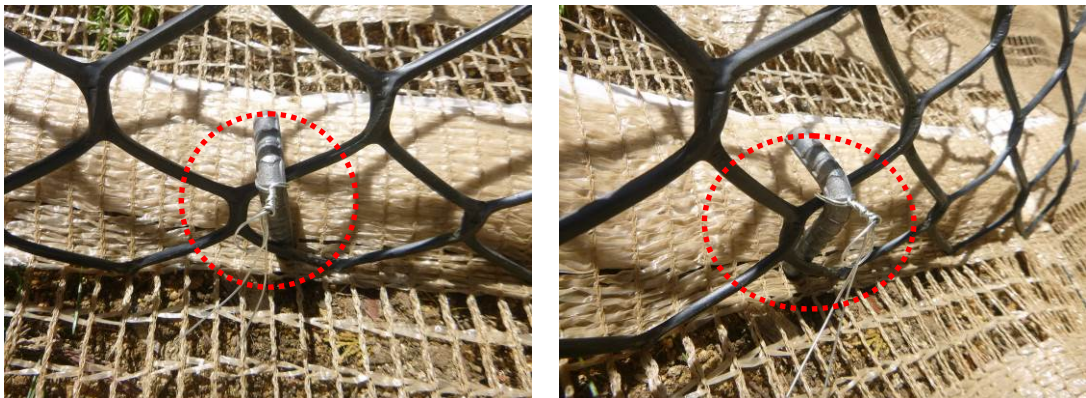


写真-17. ネットとアンカーピンの結束状況

【法尻部における製品長さの調整方法】

法尻部において、アーチブロックの長さ調整が必要となる場合には以下の方法を参考に施工して下さい。

例①：アーチひと山（55cm 分）を残った法長に合わせ、アンカーピンで固定する。

（これまでよりも大きいアーチが形成される）

例②：残った法長に対し、アーチ頂点高が概ね 20cm 程度となるよう部材を切断し、間隔の短いアーチを形成する。

（これまでと高さは同じであるが、間隔が短いアーチが形成される）

※切断加工し短くなったネットを使用する場合でも、前述の法肩部・ネット接続部・法尻部の各施工方法に従い、施工を行って下さい。

手順⑥：隣接するアーチブロックとの隙間間隔は、標準 5cm で施工します。
規格値は+5cm（隙間間隔 10cm まで）、一側の規格値は無し（製品を重ねて施工してもよい）とします。



写真-18. アーチブロックの隙間間隔

※ 5cm の隙間は、隣接する製品端部どうしが接触することで、施工しづらくなることを避ける目的で設定したものです。しかしながら、5cm の隙間を確保することで、逆に施工性が悪く感じる場合には、隙間を無くし施工することに問題はありません。

製品幅は規格値として、0.95m と表示しておりますが、ほとんどの製品は幅 1.0m ありますので、隙間を無くし施工することで、ロスが大幅に変わることはありません。

4. 不整形地への対応について

山腹法面のような不整形地（すり鉢状地形）や道路法面における曲線区間では、アーチブロックを常に平行に設置することが困難となります。このような場合には、以下の対応をお願いします。

①アーチブロックを重ね合わせる

植生マット施工時と同様に、アーチブロックを重ね合わせ、隙間ができないよう施工します。この際、下側にくるアーチブロックはアーチが形成できなくともかまいません。

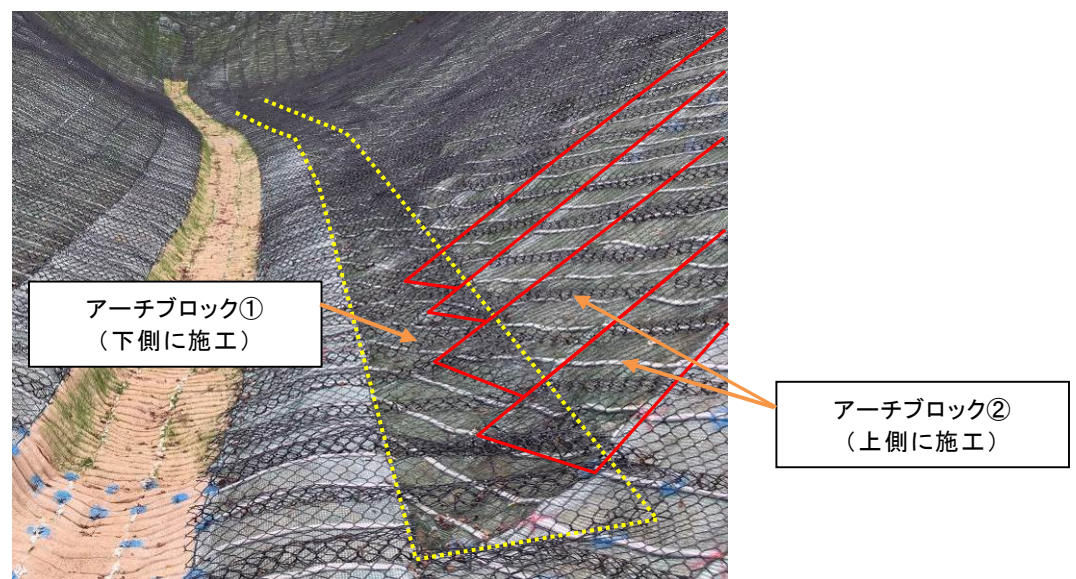


写真 15. アーチブロックを重ねて施工した事例

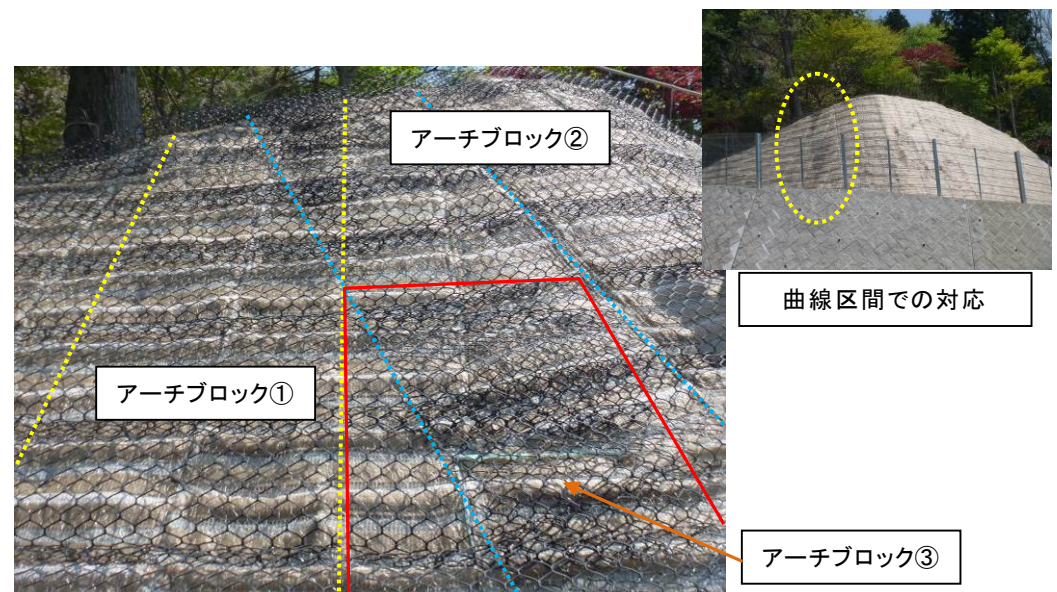


写真 16. アーチブロックを重ねて施工した事例

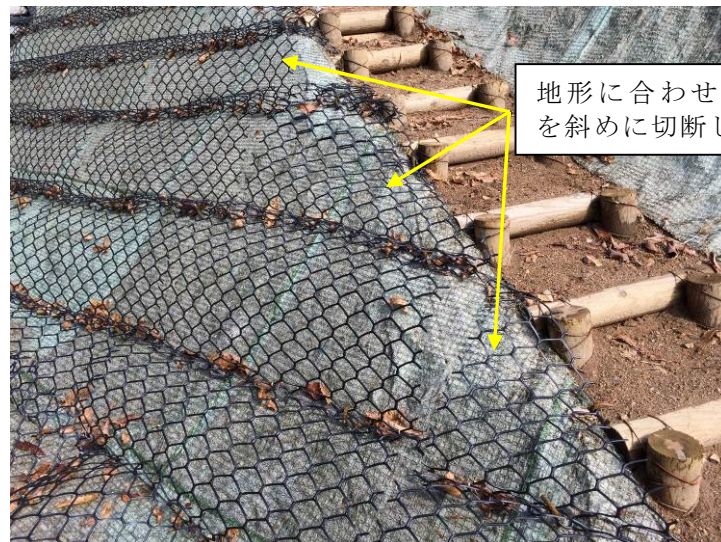
②アーチブロックを切断加工する

隣接するアーチブロックが重ならないよう切断加工し，施工する。
プラスチック切断用ハサミがあれば，容易に切断できます。



地形に合わせ，アーチブロックが重ならないように切断した例

写真 17. アーチブロックを切断加工した事例



地形に合わせ，アーチブロックを斜めに切断した例

写真 18. アーチブロックを切断加工した事例

5. 施工管理

アーチブロックの出来形管理基準及び規格値を以下に示します。

表 1, 出来形管理基準及び規格値

測定項目	規格値	測定基準
面積	設計面積以上	全施工面積について、展開図又はその他の方法により測定（求積）する。
アンカーピンの打設間隔 （法長方向）	55cm 以下	施工面積 200 m ² につき 1 ケ所、面積 200 m ² 以下の場合 は、1 施工箇所につき 2 ケ所。
アンカーピン数 （延長方向）	製品幅 0.95m（1 列）に対し、 法肩・接続部→3 本 上記以外→2 本	
アンカーピンとネットの結束 ネットとネットの結束	指定された箇所に結束がおこなわれているか	
アーチブロック設置間隔 （隣接部との隙間）	5cm+5cm ※マイナス側の規格値は無し （製品を重ねて施工してもよい）	施工延長 40m につき 1 ケ所、 延長 40m 以下の場合は 1 施工 箇所につき 2 ケ所。
法長、延長	各発注機関が定める「植生工」の出来形管理基準及び規格値に準ずる。	

注)：施工規模、地形状況等により、上記基準によりがたい場合は、発注機関と協議の上、施工管理を行って下さい。

以 上